

研究・調査報告書

報告書番号	担当
125	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Effectiveness of mandatory alcohol testing programs in reducing alcohol involvement in fatal motor carrier crashes. 致死的な乗客貨物輸送の衝突事故でのアルコールの関与を減少させるための義務的なアルコールテストプログラムの効果	
執筆者	
Brady JE, Baker SP, Dimaggio C, McCarthy ML, Rebok GW, Li G.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2009 Sep 15;170(6):775-82. Epub 2009 Aug 19.	
キーワード	
自動車事故 アルコール摂取 職場健康 政策 研究 安全 外傷と損傷	
要 旨	
目的： 貨物輸送の運転手に対する義務的なアルコールテストプログラムが1995年にアメリカ合衆国で実施されたが、評価が十分になされていない。このプログラムが、致死的な乗客貨物輸送の衝突事故でのアルコールの関与を減少させたかを評価した。	
方法： 1982~2006のFatality Analysis Reporting Systemのデータを使用し、致死的な乗客貨物輸送の衝突事故でのアルコールの関与を減少させるための義務的なアルコールテストプログラムの効果を評価した。	
結果： 対象は69,295人の乗客貨物輸送の運転手と83,436人の乗客貨物輸送ではない運転手であり、致死的な自動車の衝突事故に巻き込まれた66,138人を含んでいた。全体として乗客貨物輸送の運転手の2.7%と乗客貨物輸送ではない運転手の19.4%がポジティブなアルコール血中濃度であった。調査期間、致命的な事故とアルコールの関係は、客貨物輸送の運転手の80%と乗客貨物輸送ではない運転手の41%で減少した。運転歴、性別、酔っている間の運転歴、生存の状態で調整した義務的なアルコールテストプログラムで、乗客貨物輸送の運転手によって起きる致死的な衝突事故のアルコールに関係するリスクを23%減少させていることが明らかになった(オッズ比0.77、95%信頼区間0.62,0.94)。	
結論： この研究の結果、義務的なアルコールテストプログラムは、致死的な乗客貨物輸送の衝突事故におけるアルコールの関係を有意に減少させていた可能性が示唆された。	